

資金の流れを変える ～財務上のシステム改革～

「大学全体」としての財源確保により未来に備え
「個」への環流により未来への投資を図る

① 学内財源配分の見直し

基礎研究の推進や人材育成など大阪大学の将来の発展のために有効活用できるよう再構築



間接経費の**20%相当分**を
研究者へ配分することを
可能とした。

② 施設老朽化対策

施設の補修を計画的・持続的に大学の責任で
実行していくため

保有面積に対し、**1㎡あたり年間500円**を留保する

資金の流れを変える ～財務上のシステム改革～

「大学全体」としての財源確保により未来に備え
「個」への環流により未来への投資を図る

基礎研究

未来志向のサイクルを確立！

社会への
還元

応用研究



通 塾 : 大 阪 大 学 の 原 点



1838

175th

22世紀に輝く



www.osaka-u.ac.jp



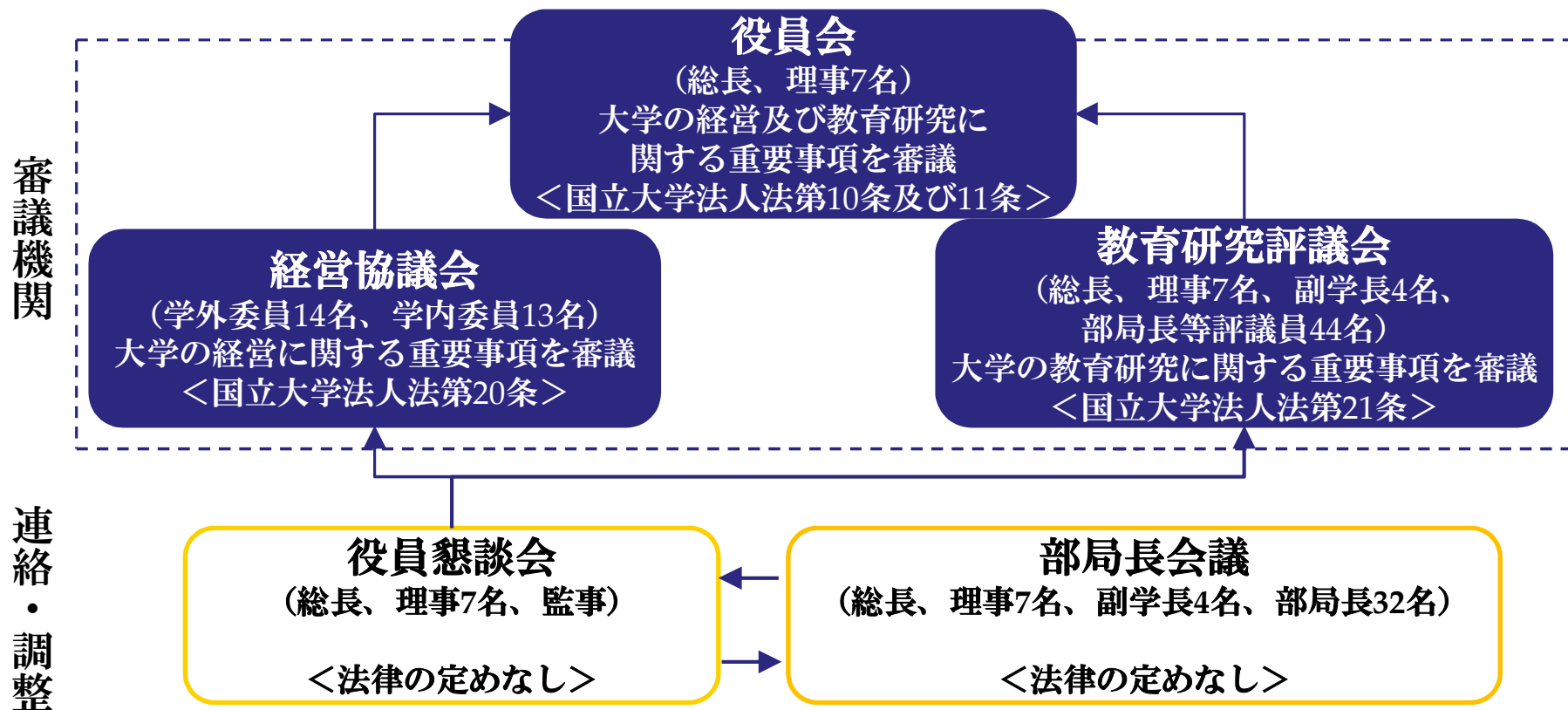
大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

目の前の山を一つ一つ登りきる

付 録

1. 大阪大学の意思決定プロセス及び各種選考について（平成25年10月1日現在）
2. 研究型大学のガバナンス改革実行プラン
（国立大学改革強化推進事業）
3. 大阪大学未来戦略機構の創設
4. 大阪大学未来戦略機構の機能
5. 大阪大学未来戦略機構の役割

【付録 1】 大阪大学の意思決定プロセス及び各種選考について (平成25年10月1日現在)



【総長選考】

総長選考会議により選考＜国立大学法人法第12条第2項に基づき行う＞ 総長の任期は4年、再任は2年

●総長選考会議委員

経営協議会（学外委員）において選出された者 6名 教育研究評議会において選出された者 6名
理事のうちから、役員会において選出された者 3名

参考：部局長の選考

・ 規程に則り教授会により選考（部局により異なる） ・ 任期は2年または3年（部局により異なる）



大阪大学の中に、総長が真に力を発揮することができる、理想的なグローバル大学として「**大阪大学未来戦略機構(IAI)**」をつくり、この運営を通じて、**総長の強力なリーダーシップの下、スピード感をもって積極的に大学改革に取り組む。**

I 大学運営の特性

- ①大学の目的は学問と教育であり、「**多様性**」や「**普遍性**」が活動の基本。（いかなる時代のいかなる課題にも対応）
- ②学問と教育を行うのは**教員一人ひとり**であり、各教員の**活動レベルを如何に上げるか**が重要。

II 大学改革の課題

- ①大学発展の原動力である**部局の自主性**と、部局を超えた取組を行うために必要な**学長のリーダーシップ**との**適切なバランス**をとることが難しくなっている。
- ②競争的資金により実施される教育研究プロジェクトは、**部局を中心とした体制で推進することが多く、終了時に大きな視点での見直しが行いにくい。**



III 改革の方向性

- ①**大学全体の力を最大限発揮**
部局の**自主性・専門性(縦系)**と、部局横断的な**教育研究(横系)**の緊張関係を**駆動力に変換すること**により、大学全体の力を最大限発揮する。
- ②**部局横断的な教育・研究を総長直轄で推進**
部局横断的な教育・研究を、部局から独立して**トライアル&エラー方式**により推進し、総長をはじめとする**大学執行部(機構会議)**が**直接運営**する。
- ③**大胆な挑戦と、スクラップ&ビルドで未来へ**
異分野融合による新しい研究やグローバル人材の育成に**大胆に挑戦**し、終了後は将来性を見据えた**プロジェクトの見直しや研究科再編など(スクラップ&ビルド)**に柔軟につなげる。

IV 未来戦略機構での具体的な取組

●戦略企画室(3つのチームを設置)

未来戦略機構の企画部門として、**機構の教育研究活動のマネジメント**を支援。

海外や企業等からの外部人材も活用し、教育改革や新たな研究、グローバル化に関する戦略の企画、提言を行う。

●教育・研究推進部門(H24年度は4部門)

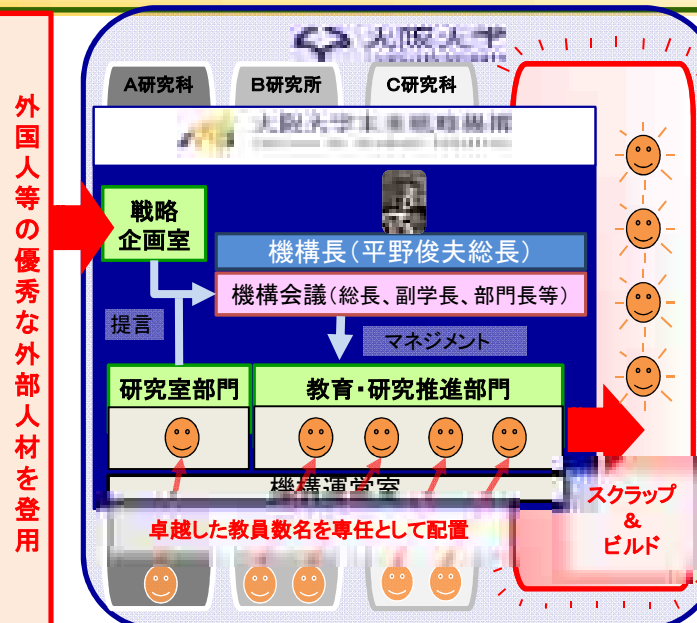
卓越した教員を専任で配置し、異分野融合による新しい教育研究課題等をマネジメントする。

[具体例]

- 超域イノベーション博士課程プログラム
- 生命科学融合領域研究プロジェクト 等

●研究室部門(H24年度は2研究室)

科学・技術や国際化に関する政策研究を行い、**機構の運営に活用する。**



V 改革の効果

①世界屈指の研究型総合大学を実現

課題への挑戦とその検証という **PDCAサイクルを主体的かつ機動的にマネジメントする体制**により、大阪大学の強みを引き上げ、世界トップブランドの大学を実現。

②激変する社会の期待に応える

グローバル人材の育成や世界的な研究成果の創出など、**大学に求められる機能や課題の解決に、的確かつ効果的に対応し、激しく変化する社会の期待に応える。**

【付録3】大阪大学未来戦略機構の創設 研究型大学のガバナンス改革実行プラン～「大学の中の大学」構想～

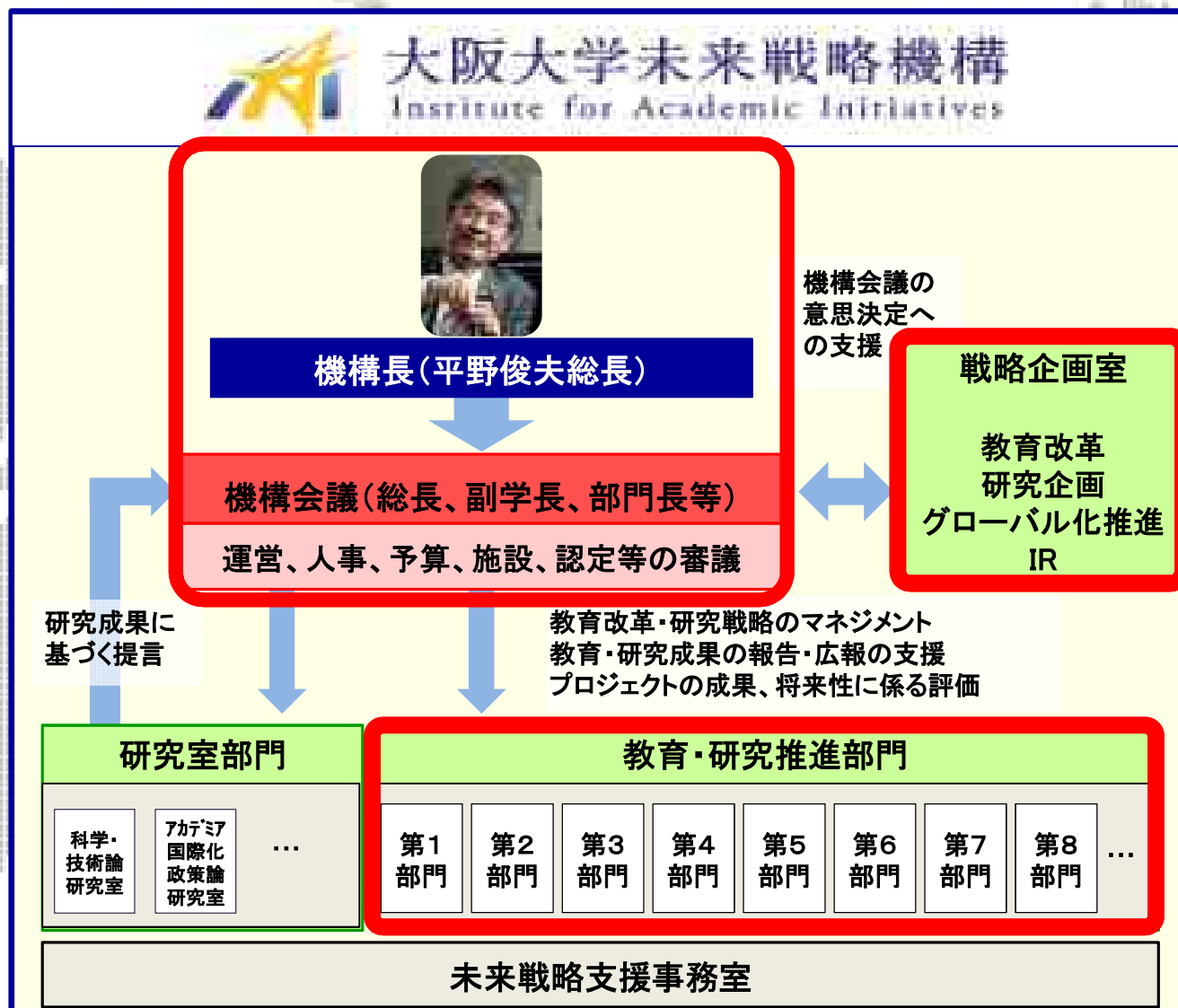
学問の多様性

各教育研究組織が自主性と独自性を発揮し
教育・研究のレベルアップに邁進



未来戦略機構が大学全体の戦略的司令塔機能を担い
部局横断的な教育・研究
異分野融合領域のインキュベーションに取り組むことで
大学全体の力を最大化し、困難な課題に挑む

【付録4】大阪大学未来戦略機構の機能 ～大学全体の戦略的司令塔～



【付録5】大阪大学未来戦略機構の役割

世界トップレベルの
学問分野の育成と創成

創薬基盤科学
認知脳システム学
光子科学…

グローバル人材の育成

博士課程教育
リーディングプログラム 等

世界トップレベル
研究拠点

免疫学フロンティア
研究センター

iFReC



大学全体の力を最大化し
困難な課題に挑む
大学が責任を持って
プログラムを運用し
柔軟にトライ&エラーを
重ねていく

研究型総合大学としての
多様性を最大限に活かし、
異分野融合を推進し、
新しい学問領域を創成する

